

I ラスパイレス指数の状況

1 ラスパイレス指数とは

仮に国家公務員（一般行政職）がその自治体から給料をもらったら、国家公務員時を100として、平均してどれだけもらえるかを数字であらわしたもの。

2 全般状況

県内市町村のラスパイレス指数の平均は92.4、全国平均は98.7であり、他の都道府県と比較して低い状況。

（参考：20年度の都道府県別の市単純平均では低い方から全国16位、町村単純平均では低い方から全国5位）

3 市町村の状況（P 3参照）

○ラスパイレス指数が高い上位3市とその高い理由

生駒市（100.3）

「国より職員の昇給スピードが速い」

「同じ職名でも国より上位の級に昇級できる」

「国より初任給が高い」

天理市（99.7）

「国より職員の昇給スピードが速い」

「国より初任給が高い」

大和郡山市（99.7）

「国より職員の昇給スピードが速い」

「同じ職名でも国より上位の級に昇級できる」

「国より初任給が高い」

○ラスパイレス指数が高い上位3町村とその高い理由

斑鳩町（95.9）

「同じ職名でも国より上位の級に昇級できる」

「給料表が7級までである」

三郷町（95.4）

給料の高い上位の役職に高校卒の職員が中心となっていており、他の団体と比べて高校卒の職員の平均給料が高いため、計算上高くなっている。

川上村（95.4）

上記と同じ。

II 職員数の状況

1 全般状況

県内市町村の職員数は平成9年度から12年間継続して減少。

これは、退職した職員の補充（新規採用者）を抑制しているため。特に、各団体とも集中改革プランの策定以降は、同プランの中で掲げた職員数の数値目標の達成に向けて新規採用を厳しく抑制。

県内市町村職員数（H20.4.1時点） 14,567人

対前年比較増減数 ▲437人 ※過去最大の削減数

対前年削減率 ▲2.91% ※過去最大の削減率

2 類似団体と比較した超過人数の状況（P 4参照）

類似団体と比較した超過人数の県内市町村合計は841人。

特に市において超過人数が多い。

○超過人数が多い上位3市とその主な要因

奈良市（364人） 保育所に増員配置、清掃部門直営。

宇陀市（150人） 合併の影響で幅広い分野で職員が多い。

桜井市（99人） 保育所に増員配置、清掃部門直営。

- 超過人数が多い上位3町村とその主な要因
 田原本町(47人) 幼稚園に増員配置。
 大淀町(39人) 給食を各学校で調理、保育所に増員配置。
 平群町(34人) 保育所に増員配置、ゴミ収集直営。

3 集中改革プランにおける市町村職員の削減状況 (P 5参照)

各市町村とも平成17年度から22年度にかけての職員数の削減目標を集中改革プランの中で定めて公表。

<5年間の目標削減率>

- 県全体削減率 $\Delta 8.3\%$ (全国市町村平均 $\Delta 8.5\%$)
- 目標削減率が低い上位3市
 葛城市 $\Delta 3.5\%$ 奈良市 $\Delta 5.4\%$ 橿原市 $\Delta 5.9\%$
- 目標削減率が低い上位3町村
 田原本町 $\Delta 3.8\%$ 安堵町 $\Delta 4.4\%$ 下北山村 $\Delta 5.7\%$
- 目標削減率が高い上位3市
 宇陀市 $\Delta 12.8\%$ 五條市・御所市 $\Delta 10.2\%$
- 目標削減率が高い上位3町村
 明日香村 $\Delta 26.4\%$ 下市町 $\Delta 21.9\%$ 広陵町 $\Delta 20.9\%$

<20年4月時点での進捗率>

- 県全体進捗率 90.9% (全国市町村平均 75.3%)
 市町村職員は17年度から県全体で $\Delta 7.5\%$ 削減。(全国市町村平均 $\Delta 6.4\%$)
 3年目の時点で20団体において、目標を達成。
- 進捗率が低い上位3市
 生駒市 60.2% 大和高田市 71.2% 香芝市 72.0%
- 進捗率が低い上位3町村
 御杖村・天川村 33.3% 広陵町 40.0%
- 進捗率が高い上位3市
 葛城市 130.8% 桜井市 122% 御所市 120.9%
- 進捗率が高い上位3町村
 吉野町 268.8% 野迫川村 200.0% 安堵町・上北山村 180.0%

4 類似団体超過人数と削減目標(又は実績)人数との乖離が大きい団体 (P 5参照)

集中改革プラン達成後の市町村職員の超過状況を予想する一つの方法として、類似団体と比較した場合の超過人数と集中改革プランにおける削減目標人数(又は20年時点の削減実績人数)との差を分析。

乖離差が大きい市町村では、集中改革プラン通りの職員削減をしても、なお類似団体と比較して大きな超過人数が生じることが予想される。

- 乖離が大きい上位3市
 奈良市(差184人) 桜井市(差49人) 宇陀市(差28人)
- 乖離が大きい上位3町村(人口5千人未満の団体除く。該当2団体のみ)
 田原本町(差35人) 平群町(差12人)

(参考): 類似団体と比較した超過人数とは

全国の市町村を人口規模と産業構造により類似団体としてグループ分けをし、同じ類似団体の中で各部門ごとの配置職員数の平均値を算出したものをベースにして、比較しようとする団体の人口に応じた配置職員数を計算し、実際の職員数との比較したもの。